

【22\_159技術系メルマガ】『リスクリワード』は『妥当なリスク』を把握するところからスタート

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

今回のテーマは、『リスクリワード』の考え方の深掘りです。

「え？ 要はリスクリワード1:2とか、1:3って決めておけばいいんでしょ？」って思いますよね？

勿論やっていること自体はその通りなのですが「リワードありき」で損切りを決めたとしても

損切幅が『一貫した根拠に沿っていない』のでは意味がありません。

それでは無駄なエントリーと損切りが増えてしまうだけです。

そこで、あまり界限でも核心について指摘されることが少ないポイントを、今日のメルマガでお伝えしますね。

□  
■ 損切り(リスク)は、自分の『想定』と見比べながら決めるべし

どういふことかを先に説明しておきます。

例えば『MA収縮』と『3波理論』というテクニカルでセットアップを決めてトレードしているとします。

その場合、前にも別の機会で模式図を提供しましたが、自分は『3波発生』を想定してエントリーしているわけですから

先に認識した『1波の上げ / 下げ が否定される』場所が 損切りの場所になります。

ですが、それだと取るべきリスクが大きすぎる、という場合は

下位の時間足のチャートパターンに分解し、『パターンの崩壊＝損切り』の条件とすることで

更に損切幅を最小化し、相対的なリワードを大きくすることができます。

▼損切りの根拠の考え方(3波理論ベース)▼

<https://drive.google.com/file/d/16uMIZKq2nq10LEEQwFNY0oh8ToWa0ZaK/view?usp=sharing>

この考え方は、サロンの中でメンバーの皆さんとも議論しながら

最終的に体系化していったものの概略図です。

具体的なメカニズムや、実際のチャート事例などもサロン内では色々実トレード事例などを交えて、今も議論が活発に行われていますが

結局用いている考え方は

古典的な『トレンド』『チャートパターン』や、エリオット波動の3波目の話が軸であって

特別な知識が何か必要、というものではありません。

自分のテクニカルに沿った想定でエントリーした際に

【何処まで逆行されたらロジックが崩されるのか】

損切り位置を決めるポイントは、常にこの点を意識して一貫した判断をすることだけです。

このような背景なく、ただ小さく損切りを置くだけでは、ロスカットし放題の損切り貧乏になってしまいますし

逆に大きく損切りを置きすぎれば、その分狙うリワードも大きく取らなければ割に合わなくなってしまう。

例えば、リスクリワード1:3で損切りを30pips置いたら、90pipsを狙う事になりますが

短期デイトレのルールでやっている人が、その利幅を狙いに行くというのは

通常、通貨のボラティリティを考えれば妥当な値ではないのは想像できますよね。

なので、僕の場合は3波目を狙ったトレードをする場合、先程図で示したように

原則としている『1波起点』での損切りでリスクが合わない(大体15pips以上になる場合)と思う時は

M5足以下のチャートパターンに分解し、分解したパターンのネックブレイクでエントリーする(損切りは、パターンのトップを抜けた時)と決めています。

一昨日のメルマガで紹介した GBPUSD(L)のエントリーも、今回はM1足の極小パターンまで分解して

ストップを最小化しました。

▼参考画像▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/chart/2022-06-06\\_GU.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-06-06_GU.png)

ただ、これは僕が大きなロットを張ってトレードする関係上、1pipsでも合理的にストップを最小化して、相対的なリワード比を良くするためにやっているだけで

日常的にチャート前で監視が出来ない人は、ここまでやらなくても大丈夫です。

基本は、あくまで『1波の否定される所(ここでも15pips程度の損切幅でいける)』を根拠として

目標リワードまで保有するというスタンスで取り組みましょう。

以前のメルマガでも、エントリーを検討する時には『損切り』が先に決まり、そこから目線方向への空間の開き具合で

『リワード』が決まるという話もしてきました(【034】通目など)。

今年に入ってから、今日のメルマガで159本目のテーマをお送りしてきましたが

これらの全ては一つのトレードスタイルを形成するに至るまでの考え方として、すべて繋がっています。

同じようなテーマでも、角度を変えて伝えていく事も引き続きやっていきますので

ご自身の研鑽、技術の向上に是非とも役立ててくださいね。